

科目名	国際保健学演習	code number : HPM-GH 321	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	崎坂 香屋子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

Global Health (GH)と呼ばれる国際保健学はかつてInternational Healthと訳されていた。しかし訳語の起源ともなっていた先進国と途上国を含む世界全体のシステムの変容や、情報を含めた各種インフラの急速な改善によって多くの疾病対策は地球規模の課題となった。本科目では2016-2030年の間の世界全体での共通開発目標を掲げた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」の中の保健医療分野に関連する開発課題のうち、我が国も深く関与している課題、および受講者が実際に関わってきた課題を取り上げ、討論形式も取り入れ、実際に当事者として国際保健を改善するための学びを深める。またGlobal Healthの改善に取り組む国際機関、2国間援助機関、国際NGO等の取り組み、その相違と特徴についても知見を共有する。条件が整えば実際にいくつかの在京の国際機関、政府機関等のGlobal Healthへの取り組みについて訪問協議等を通じ、担当者と討論する場を提供する予定である。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1.国際保健分野の重要課題の概要について理解し、世界の様々な機関や人々による取り組みについて説明、提言できるようにする。さらに当事者として課題について解決、改善を行うのに十分な知見を獲得していく。

【行動目標 (SBO)】

- 1.Global Healthの課題別、地域別課題、特に感染症対策、非感染症対策(NCD)、Universal Health Coverage(UHC)等について、その概要を解説できる。
- 2.Global Healthの課題の改善について現場で取り組む国際機関や日本を含む2国間援助機関、また国際NGO等の具体的かつ効果的取り組み、特徴、および今後の課題について説明できる。
3. Global Healthのいくつかの課題の改善のための方策について具体的に企画、実施、評価ができ、解決のための政策について自らの考えを含めて明確に説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業内で行う課題、宿題 (30%)
- (2) 授業内での発表、討論での積極性 (30%)
- (3) 最終課題レポート(40%)あるいは筆記試験 (40%)
出席点による加点は行わない。無断欠席については減点の対象となる。
- (4) 課題、レポートを再提出または期限に遅れての提出は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること。参考文献、資料については第1回目に指示する。

5. 参考書

「国際保健医療学 第3版」(杏林書院、2013年)他、各講義において事前に読むべき文献および参考となる文献、論文を指示する。科目担当者より講義のあいだに何点かLancet Global Health[<https://www.thelancet.com/journals/langlo/home>]から最新のGlobal Healthに関する論文、コメントについて紹介する予定であるので、あらかじめこのサイトにアクセスできるようにしておくこと。

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。
- ・本演習では受講者の興味、活動、調査についても1人1回はパワーポイントを用いて数分程度で紹介、解説し、自らの主張を含め発表いただくこととする(質疑応答の時間も数分程度とる)。
- ・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際保健学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/18(水)	3	崎坂香屋子 准教授	Introduction,科目オリエンテーション、受講者による興味のある課題についてのプレゼンテーション International HealthからGlobal Healthへ:その経緯と実際
2	9/18(水)	4	崎坂香屋子 准教授	MDGsからSDGsへ:新たなGlobal Healthの課題とは:NCDs、Human Rights、Conflict and Refugee、UHCの開発における重要性とは
3	9/25(水)	3	崎坂香屋子 准教授	主要国際機関等のGlobal Healthに対する取り組み(1):UNDP、UNICEF、UNFPA、WFP、IOM、ILO、WB、ADB
4	9/25(水)	4	崎坂香屋子 准教授	主要国際機関等のGlobal Healthに対する取り組み(2):UNDP、UNICEF、UNFPA、WFP、IOM、ILO、WB、ADB
5	10/2(水)	3	杉下 智彦 講師(非)	アフリカ地域におけるGlobalHealthの現状と課題(1) 感染症対策、地域に特有な疾病とその背景
6	10/2(水)	4	杉下 智彦 講師(非)	アフリカ地域におけるGlobalHealthの現状と課題(2) アフリカにおける保健システム、TICADにおける議論
7	10/9(水)	3	高橋 謙造 教授	SDGsにおける重要なGlobal Healthの課題(1):Universal Health Coverage(UHC)の動向と課題:背景とその概要
8	10/9(水)	4	高橋 謙造 教授	SDGsにおける重要なGlobal Healthの課題(2):Universal Health Coverage(UHC)の現状と課題: 総合討論、政策提言
9	10/16(水)	3	坂元 晴香 講師(非)	世界の国際保健政策の決定プロセスと日本の役割: World Health Organization(WHO)と日本 (1)
10	10/16(水)	4	坂元 晴香 講師(非)	世界の国際保健政策の決定プロセスと日本の役割: World Health Organization(WHO)と日本 (2) ロールプレイによる学修、総合討論
11	10/23(水)	3	崎坂香屋子 准教授	SDGsにおける重要なGlobal Healthの課題(3) 開発途上国における水・衛生、トイレ学:水・衛生分野の トップドナーとしての日本の役割と課題
12	10/23(水)	4	崎坂香屋子 准教授	SDGsにおける重要なGlobal Healthの課題(4) 開発途上国におけるNCDsとしての精神保健の現状と課題
13	10/30(水)	3	崎坂香屋子 准教授	主要先進国のGlobal Healthに対する取り組み(1) OECD加盟国、先進二国間援助機関の取り組みの現状と課題
14	10/30(水)	4	崎坂香屋子 准教授	主要先進国のGlobal Healthに対する取り組み(2) 日本の国際保健政策の変遷(外務省国際保政策室の取り組み)
15	11/6(水)	3	崎坂香屋子 准教授	まとめ、総合討論